

地球環境と調和したモノづくりにむけた取り組みの強化

ISO26000 との関連 6.5 環境

SDGs との関連



Materiality

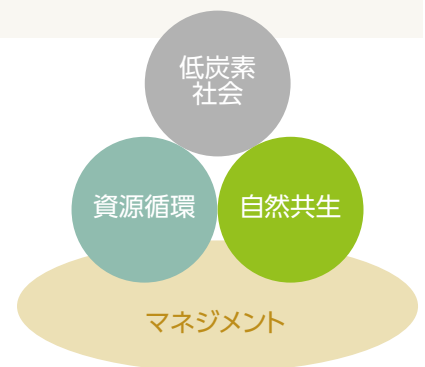
アイチグループは、環境課題として「低炭素社会構築」「資源循環型社会構築」「自然共生」の3つを掲げ、中長期目標の設定を行うことで、実現に向けた取り組みを行っています。これらの取り組みにより、エネルギーと資源の効率的利用を実現していくとともに、地球環境と調和したモノづくり、および環境負荷の少ない製品やサービスの提供を通じて、社会、地球の持続的発展に寄与していきます。

環境マネジメント



● 2020年環境取り組みプラン

2016年度から2020年度までの環境行動の指針・計画である「アイチ環境取り組みプラン2020」を策定しました。「環境マネジメント」をベースに、環境活動の方向性として「低炭素社会構築」「資源循環型社会構築」「自然共生」を3大重点テーマにあげて推進します。併せて、連結子会社までのグローバルな視点を組み込んだマネジメント強化により、サステイナブルカンパニーとして社会・地球環境へ貢献していきます。



テーマ	取組項目	主な取組内容	評価	
3大テーマ	低炭素社会構築	① エコ製品・技術開発の推進	・高強度板ばね用鋼の試作 ・次世代高圧水素用ステンレス鋼の試作	○
		② エネルギー改革によるCO ₂ 排出量低減	<目標>日本鉄鋼連盟低炭素社会実行計画(フェーズI)対応	○
		③ 生産活動における省エネ活動の徹底	・低炭素社会実行計画(フェーズI)対応済 ・生産省エネ活動の推進(EMS最高責任者等現地現物点検)	○
		④ 物流活動における輸送効率の追求	<目標>輸送量あたり排出量2006年度比11%削減 ・動線短縮(逆流・2重デポ解消) ・モーダルシフト(陸上→海上輸送化) ・積載率向上(刈谷・鍛造工場)	○
	資源循環型社会構築	⑤ 生産における副産物の低減と更なる資源の有効利用	<目標>粗鋼量あたり排出量≤189.3kg/t ・ダスト電気炉吹込みリデュース ・SUSダスト一部社外売却 ・瓦礫社内リサイクル ・廃酸汚泥社外リサイクル	×*
		⑥ 資源循環型企業に資する事業推進	・展示会等でのDyフリーバンド磁石、省Mo鋼のPR	○
		⑦ 物流活動における梱包資材の低減と有効利用	・新規対象有無フォロー→対象なし	○
		⑧ 生産活動における水使用量の低減	・鍛造工場、岐阜工場水使用量管理継続	○
	自然	⑨ 自然・生物多様性保全活動の推進	・知多半島生態系ネットワーク形成事業参加継続	○
環境マネジメント	⑩ 異常・苦情ゼロ活動の推進	<目標>異常・苦情0件/年 ・環境法規制値の80%以下管理の徹底 ・未然防止活動(GK強化)の推進	○	
	⑪ 連結環境マネジメントの強化	・国内関連会社との相互研鑽会継続実施 ・安環部長による国内子会社環境監査 ・全社化学物質管理体制のキックオフ	○	
	⑫ 各国各地域の都市大気環境改善に資する排ガス低減	・低排出ガス車導入フォロー	○	
	⑬ ビジネスパートナーと連携した環境活動の推進	・グリーン調達ガイドライン 仕入先への説明会実施	○	
	⑭ グローバル社員教育・啓発活動の一層の強化	・新規教材(環境KYトレーニングツール)の検討	○	
	⑮ 環境情報の積極的開示とコミュニケーションの充実	・レポートの発行継続とさらなる内容充実 ・環境コミュニケーション活動の充実(メディア工場見学、地域懇談会、ビジターセンター展示等)	○	

※16年度発生分の期ズレ及びスラグ発生原単位悪化

低炭素社会構築に向けた取り組み



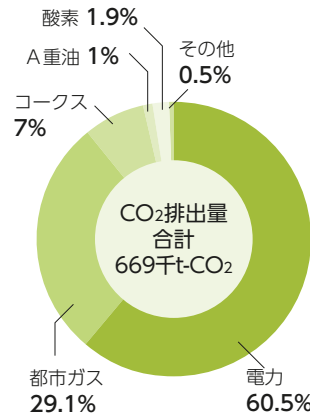
● 2017年度目標と実績



当社は、「アイチ環境取り組みプラン2020」に基づき、日本鉄鋼連盟の「低炭素社会実行計画(フェーズI)」目標達成に向け、CO₂削減に取り組んでいます。社内目標としては、より高いレベルを定めて取り組んできましたが、増産による悪化を挽回できず、社内目標の達成には至りませんでした。

CO₂総排出量
669千t-CO₂/年
(昨年度比 +34千t)

■ 2017年度のエネルギー使用量(CO₂排出量)内訳



■ 昨年度からの増減要因

改善項目

① 圧延ラインの加熱炉断熱改善	1.0千t-CO ₂ /年
② スクラップ適正使用による加炭材低減	4.9千t-CO ₂ /年
合計	5.9千t-CO ₂ /年

増加要因

① 増産による増加	39.1千t-CO ₂ /年
合計	39.1千t-CO ₂ /年

資源循環型社会構築の取り組み



● 廃自動車リサイクルへの貢献

2005年から施行された「廃自動車リサイクル法」にともない、トヨタグループでは完全リサイクルを目指して取り組んでいます。当社は豊田メタル(株)殿と協力してリサイクル向上に努めており、これまでリサイクルが最も困難だったガラス部分について、リサイクル技術の開発を進めてきました。

当社では電気炉から発生する製鋼スラグへ「スラグ沈静材※」としてケイ砂を投入しますが、ケイ砂はガラス成分に近いという点に着目し、ケイ砂と廃ガラスを混ぜて投入することで同様の

効果を得ることが可能となったため、廃ガラスを電気炉副資材としてリサイクル使用することとしました。

これにより、廃自動車リサイクル率は99.8%となりました。



▲ 特殊な成分や色のためにこれまでリサイクル困難だった自動車の廃ガラス

※スラグ沈静材:スラグ成分のコントロール、冷材としての温度降下、突沸の抑制を目的に添加する電気炉副資材

自然共生の取り組み



● 「オールトヨタグリーンウェーブプロジェクト」活動への参画

オールトヨタで推進している自然共生の取り組みの一つ「オールトヨタグリーンウェーブプロジェクト」に参画しています。このプロジェクトでは、「地域を“つなぐ”自然共生活動」に向けて

様々な取り組みを行っており、人と人をつなぎ、活動をつなぎ、生物の生息域をつなぐことで、生態系の回復増加に寄与する活動を進めています。

● カブトムシのすむ森づくり

広葉樹の森を形成し、カブトムシをはじめとする生物が暮らし続けていける環境の創出を目的に、2012年度より実施している活動です。知多半島生態系ネットワーク推進協議会や、NPOの学生実行委員会のメンバーにも協力をいただき、育成活動を継続しています。2017年度は、「つなぐ活動」として、豊田合成殿に苗木を提供していただき植樹を行いました。毎年秋に「森2(もりもり)イベント」と題して盛大に開催し、社員・家族参加型の内容で、他団体・企業との連携プログラム、ネイチャー

クラフト体験、どんぐり拾いからの苗作りなどを行うイベントとして開催しました。



▶ 学生実行委員とネイチャークラブ体験